

高松市生涯学習センター 生涯学習カレッジ（個人の生活に役立つ講座）

「高松城下図の世界を歩く」を開催しました。

平成30年10月4日・18日・11月1日（木）、香川大学名誉教授 田中 健二さんを講師に迎え、「高松城下図の世界を歩く」を開催しました。

初回の10月4日は、高松市街の古地図（元文5年 1740年）の資料をもとに、当時の町の様子の説明から始まりました。城下町高松には杣場川に3つの橋、新橋、高橋、今橋がかかっていたそうです。そして道は城の守りのための、「鍵の手」「当て回り」という、まっすぐには進めないように作られていました。明治維新や空襲などで町の形は少しずつ変わっていきませんが、道の形は今も変わらずに残っています。



2回目は「高松城外堀跡を探る」をテーマに歩きました。まなびCANから片原町を西に歩いていきます。片原町にある、北向きの天神さんの華下天満宮の前を通り、三越近くの常盤橋跡から広場近くの外堀の西の端まで歩き、外堀に沿った路地を東に進み、杣場川まで歩きました。前回習った「鍵の手」「当て回り」などに気をつけながら歩くのも楽しい経験でした。

3回目の11月1日は「城下の丸亀街道を歩く」をテーマに歩きました。新番丁小学校付近でバスを下車。扇町の古民家の残る道から、愛宕神社へ。この辺りは空襲の被害を受けていないようで古い街並みや、町屋の古民家を見ることができます。そこから北へ歩き歩道橋の上から高松城跡と勝賀城跡を遠くに眺め、弘憲寺へ向かいます。弘憲寺は高松藩主だった生駒親正夫妻の墓所です。子供のころ近所に住んでいた参加者の方もいて、当時の話や、高松の歴史や城下町の話聞かせていただき、講師の先生と参加した方々と会話が弾む中、3回の講座を終了しました。



知っているようで知らないことだらけの高松。町歩きを通して町の変遷や歴史を知り、改めて歴史のおもしろさと奥深さを体感した講座でした。